

古典の記述から読み解くオーロラと巨大磁気嵐 ～国立極地研究所・国文学研究資料館 訪問～

探究・学問の
無限の可能性

国文研・山本教授

文

提供：『訓蒙天地辨』国文学研究資料館蔵



X

理



提供：国立極地研究所

極地研・片岡准教授

藤原定家(1162-1241)が残した『明月記』には、1204年2月21日と23日、京都でオーロラが見えたとの記述があります。これは1週間のうちに何晩も、京都のような緯度の低い地域でオーロラが観測された「長引く赤いオーロラ」の記録としては、これまでに調査されている中では日本で最古のものです。

<https://www.nipr.ac.jp/info/notice/20170321.html>

〈実施予定日〉

2020年3月10日(火)

15時00分～17時00分

立川(国文学研究資料館、国立極地研究所)

〈対象〉

本企画に興味のある成高生徒(希望者が多い場合は抽選)

〈申し込み方法〉

本申し込みは準備が整い次第受付を始めます。まだ先のことですが、参加しやすいようにまずは日程だけ先に公開します。もし興味があれば理数研究校推進委員会まで相談しにきてください。

〈担当〉金網(進路指導部)